

令和7年度 第2回隱岐高等学校 魅力化コンソーシアム合同委員会 議事録

開催日時 令和7年11月25日（火）14：00～14：30
会 場 隠岐高校 総合実践室
出席者 会長 野邊様、副会長 青山校長、監事 中村様
役員 金井様、藤野様、永島様、鳥井様、牧尾様、藤田様、石川様
委員 大原様、小室様、長田様、勝部様、原教頭、若林、岩田、福島、足立、若槻
事務局 藤田、若岡、竹崎、石原、松原、竹内

【議事録】

報告事項

1. 関西研修旅行について

- 目的や日程は昨年度とほぼ同じだが、大学見学に神戸女学院大学が新たに追加され、生徒にとって有意義な経験となった。
- 参加生徒は65名で欠席なく実施された。
- 研修全体を通して高い満足度が示されており、生徒の発表レベルが向上しているとの評価も大学・企業から得られた。

2. 生徒募集の状況について

●県内生徒募集

- 夏の高校説明会を新規実施。
- オープンスクールは例年より参加者数が減少したが、授業体験をワークショップ形式に変更し、中学生や教師から好評を得た。
- 今後は高校と中学校の連携強化（中高連携）を進める意向。

●県外生徒募集（島根留学）

- オンライン合同説明会などを通じて204組と接点を持ち、その後の個別説明会には35組が参加。
- 現地訪問数は例年と同程度に留まり、来年度の新入生は同程度の人数（2～4名程度）が予想される。
- 来年度は大阪での対面合同説明会も検討中。

●高2留学

- 昨年度で財政的支援が終了し、今年度から自走型で運営。
- 渋谷名家専門学校（大阪）との交流を経て、来年度の単年度留学生1名の内定に至った。

3. 高校魅力化アンケートの結果について

- 生徒全員（100%）が回答。
- 学校が重点的に掲げる3つの力（批判的思考力、リフレクション力、自己発信力）に関する質問項目を追跡調査している。
- 「複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ」という項目（批判的思考力に関連）は県平均や前

年度を下回ったが、その他の項目は県平均や前年度を上回る結果となった。

- 特に、行動面に関する数値が県平均よりも非常に高くなっている。

4. 進路状況について

- 現時点で、全校生徒の約8割が総合型選抜や学校推薦などの年内入試に出願している。
- 国立大学等の志願者数（延べ人数）が報告された。

5. その他今年度の取り組みについて

- 校内外での交流事業：MBS番組出演や様々な研修・交流をリストアップし、生徒の成長の機会を多く提供している。
- 広報面の強化：生徒によるSNS（Instagram）運用を開始し、リール動画が再生回数6.7万回を達成するなど大きな成果を上げた。また、地域未来留学プラットフォームによる宣伝動画も再生回数10万回超となり、認知度向上に貢献した。
- 生成AIの活用：iPadを導入し、チャットGPTのアプリを活用して、総合的な探究の時間やジオリズム、オープンスクール等でアイデア出しや課題解決型学習を実施している。

議題：島親制度のあり方について

- 経緯：国による財政支援の終了に伴い、従来の「島親」制度のあり方を再検討し、来年度以降の自走型での継続を目指す。

● 基本方針

- 地域住民との関係構築による精神的な安心拠点（サードプレイス）の提供。
- 単年度留学事業の予算がないため、気軽に短時間での利用を制度設計の前提とする（高い頻度や宿泊は前提としない）。
- 単年度留学生だけでなく、全留学生が利用できる制度とする。
- 入学または入学初年度のみの利用を原則とし、2年目以降は生徒と島親の個人的な関係に移行していくことを想定する。

● 委員からの主な意見

- 第7条にあるような「事業者の紹介」や「職場交流」は島親側の負担が大きすぎるのではないか。多様な島親がそれぞれの立場で可能な範囲で生徒をサポートする形が良い。
- 島親制度のバックにコンソーシアムの力も入れるべきではないか。
- 対象は県外留学生に限定せず、県内（島外）からの留学生や、島内の生徒も含めた全寮生が対象となっても良いのではないか。
- 生徒の探究学習や部活動の成果を地域に披露する場（例：以前の予選会など）と連携させることで、島親や地域との関わりを深めることができる。